

つなぐこころ つながるこころ

かめぐち 亀口

こういち 公一さん

(61)

「日常生活だけでなく子どもには支援を求める。未来も破壊される」。地力がない。震災、津波、放射能……。阪 会長を務める宇治市横 神大震災を超える深刻さ 島町のNPO法人「アジール舎」は、発達につま 息をのんだ。生活必需品を必死に求める大人の 声が目々伝わる。でも、

「子どもには支援を求める。すぐに被災地の子どもの支援を始めることに決めた。」

「子どもの身体的、精神的な栄養素であるおもちゃが今こそ必要」。ホームページなどでおも



おもちゃと一緒に届けられたメッセージを読む亀口さん(宇治市横島町・アジール舎の「こぼるるの家」)

被災地におもちゃを届けたNPOの代表



届けられたおもちゃで遊ぶ避難所の子どもたち (福島県会津若松市)

「スク市の小中学生が「被災地の子どもたち」とウラジオストクの日本領事館に託したおもちゃも送られてきた。また、22日から10日余りで、全 国からぬいぐるみや積み木、ミニカーなど数千点がぞくぞくと集まった。ロシア極東のウスリー部2万3千円も託され

「スク市の小中学生が「被災地の子どもたち」とウラジオストクの日本領事館に託したおもちゃも送られてきた。また、22日から10日余りで、全 国からぬいぐるみや積み木、ミニカーなど数千点がぞくぞくと集まった。ロシア極東のウスリー部2万3千円も託され

子ども同士 思いやり

「子どもが、子どものことに思いをはせている。子ども同士の思いやりの強さを感じた」と振り返る。

おもちゃは4月から5月にかけて、岩手県立大あそびキャラバン隊や福島県会津若松市の避難所、宮城県南三陸町のホテル内保育施設などに届けた。届け先は行政の力を借りず、会員の紹介などで個別に掘り起こした。「予想できないつながりができた」と喜ぶ。

活動はまだ終わっていない。「(支援金を送ってくれた)タイの子どもたちの気持ちを、おもちゃにして被災地に届けたい」。支援金で宇治のおもちゃ作家の作品を購入し、7月中に被災地に届ける予定だ。宇治市在住。

(渋谷哲也)